

ユーザーガイド

Profoto A10

他の言語につきましては、こちらをご覧ください：
www.profoto.com



Profoto (プロフォト) 製品をご購入いただき、ありがとうございます!

新しいフラッシュやライトシェーピングツールを含む弊社の製品には、半世紀に及ぶノウハウが蓄積されています。

長らく弊社が重視してきたのは、わずかな細部にもこだわるということです。弊社では、完全に信頼できる製品にのみ弊社のブランド名を冠しています。各製品は出荷前に、多岐にわたる徹底的な検査を受けており、一定水準の性能、品質、および安全性に適合していない製品は出荷されません。

こうして出荷されたProfoto (プロフォト) 製品は、お客様を長期的に支援できると確信しています。製品の購入は始まりにすぎません。ライティングには多様な創意工夫が伴いますが、弊社では、あらゆるライティング方法と幅広いライトシェーピングツールを提供できることを誇りにしております。

ライティングの可能性は無限です。最初は戸惑うかもしれませんが、すぐにコツを掴めるでしょう。

ニュースレターまたはProfoto (プロフォト) ストーリー www.profoto.com/profoto-stories の登録をおすすめいたします。ストーリーでは、写真家の方々がProfoto の使いやすさなど、感想を共有しており、ライティングについて詳しく知ることができます。

Profoto 製品をぜひご活用ください!

Conny Dufgran (創業者)

安全に関する一般的な注意事項



安全注意事項

製品を使用する前に、取扱説明書および安全のための注意事項をよくお読みください。本書は必ず製品と共に保管してください。プロフォト製品は屋内での使用を目的としています。湿気、強い電磁場、可燃性ガスや粉塵が存在する環境では、製品の保管や使用を避けてください。製品を水没させたり、水滴のかかる場所で使用したりしないでください。花瓶など、水の入った容器を装置の上や近くに置かないでください。湿度の高い環境下では、極端な温度変化を避けてください。製品内部に結露が生じる可能性があります。製品を他社製ストロボやスタジオライトに接続しないでください。前面レンズにひび割れや深い傷など、目に見える破損があり正常に動作しない場合は、使用を中止して正常な製品と交換してください。製品は専門の技術者のみが修理、改造、修理できます。

4



注意：高電圧による感電の危険性

スタジオライト、ジェネレーターやフラッシュヘッドの蓋を開けたり、分解したりしないでください。製品は高電圧で動作します。ジェネレーターのコンデンサは、電源を切った後も長時間帯電し続けます。バッテリー（バッテリーパックまたは個別電池・バッテリー）を直射日光や火などの熱源にさらさないでください。



注意：高温部品によるやけどの危険性

前面レンズに亀裂がある場合は、製品を再使用する前に必ず交換してください。使用中は前面レンズに触れないでください。高温になる可能性があります。



危険！

本製品から有害な光放射が発生する可能性があります。動作ランプを見つめないでください。目に有害な可能性があります。

NOTICE RF についての注意事項

製品は無線通信時に特定の無線周波帯を使用します。製品を照明セットで使用する場合は、適切な注意が必要です。本書に記載された仕様、特に動作温度と供給電圧範囲に関する仕様には必ず従ってください。製品は必ず現地の規制に基づいて使用してください。製品が使用する周波数帯は他の装置も使用します。電波干渉を完全に排除することはできません。

レーザー照射

**CLASS 1
LASER PRODUCT**

IEC 60825-1、Edition 2.0 (2007-03) を参照してください。室温下の光波長：660 nm。AF アシストユニット出口窓から 100 mm 離れた 7 mm の開口を通る、室温下の光エネルギー：300 μW 未満。2007 年 6 月 24 日付けの Laser Notice No. 50 に従った偏差を除き、21 CFR 1040.10 および 1040.11 に準拠。

危険：AF 補助光用のレーザー装置を取り外したり、分解したり、改造したりしないでください。危険なレーザー光にさらされる可能性があります。



最終処分

製品が使用期限に達した場合は、他の家庭用ごみと一しょに処分しないでください。本製品は環境に有害な可能性のあるバッテリー、電気・電子部品を含んでいます。Profoto 販売店にご返却いただければ、無料でリサイクルできます。バッテリー、電気・電子部品の処分に関しては各地の法令に従ってください。

目次

安全に関する一般的な注意事項	4
製品のご使用前に	6
製品について	6
はじめに	10
バッテリーの充電	10
バッテリーの装着	11
ライトシェーピングツールの装着	11
オンカメラをTTLモード(自動)で使用する	12
オンカメラ(マニュアルモード)で使用する	12
オフカメラ使用	13
オフカメラモバイルモード	14
操作	15
電源のオン/オフ	15
モード選択(TTLまたはMAN)	16
フラッシュ出力スケール	16
TTL(自動モード)モードでの操作	16
MANモード(マニュアルモード)での操作	18
定常光	19
フラッシュヘッドのオン/オフ	19
ユーザーインターフェースのロック	19
マニュアルズーム	20
テスト同期	20
フラッシュオフカメラで使用する	21
設定の変更	21
Profoto Airの操作に関する一般的な注意事項	26
ライトシェーピング	28
クリックドーム	29
バウンスカード	30
その他の機能	32
ファームウェアのアップグレード	32
ファクトリーリセット	32
Profoto Airとの互換性	33
技術仕様	34
保証	37
規制情報	38

製品のご使用前に 製品について

A10は世界最小クラスのスタジオライトです。

優れたライトシェーピング機能を備えており、非常に使いやすく設計されています。

自然な光を作り出すために、ヘッド部は円形になっています。柔らかなライティングだけでなく、独創的な光も簡単に実現できます。マグネット式マウントで簡単に装着できる専用のライトシェーピングツールも用意されています。

A10はAir Remote TTLとレーザーを内蔵しており、他のプロフォトライトと自動で無線通信できます。また、カメラから離しても使用できます。プロフォトシステムとしてシームレスに利用可能で、ライトシェーピングの可能性が広がります。

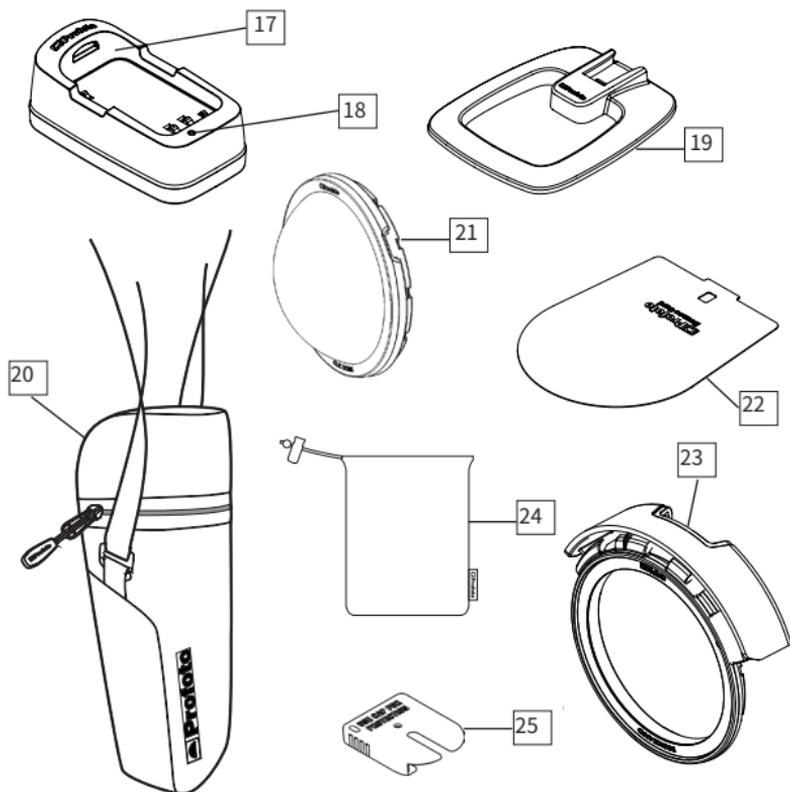
A10にProfoto BLEレーザーを内蔵しており、プロフォトカメラアプリ(iOSおよびAndroid携帯電話で利用可)から完全にコントロールすることができます。A10はオフカメラの携帯電話のライトとして使用することができます。



1. フラッシュヘッド
2. ズームリング
3. LED定常光
4. バッテリー
5. バッテリーリリースボタン
6. AF(オートフォーカス)補助発光部
7. ホットシューコネクタ
8. USBポート



- | | |
|--|------------|
| 9. ディスプレイ | 13. ダイヤル |
| 10. モードスイッチ(TTLまたはMAN)。A10をオンカメラで使用する場合のみ有効です。 | 14. 設定ボタン |
| 11. グループボタン(A、B、C、D) | 15. 定常光ボタン |
| 12. テストボタン、オン/オフボタン | 16. ロックリング |



- | | |
|-------------------|------------------------|
| 17. バッテリーチャージャー | 22. バウンスカード |
| 18. バッテリー充電インジケータ | 23. バウンスカード用ホルダー |
| 19. スタジオライト用スタンド | 24. バウンスカード用ポーチ |
| 20. ケース | 25. 保護用キャップ
(ソニー専用) |
| 21. クリックドーム | |

はじめに

バッテリーの充電

最適な性能を得るには、バッテリーを使用前に完全に充電する必要があります。バッテリーは、どの充電レベルからでも充電できます。ただしバッテリーの劣化を抑えるため、長時間の充電は避けてください。

バッテリーを充電する：

1. バッテリーリリースボタン[5]を押し、バッテリーをフラッシュから取り出します。この作業はA10をカメラに装着したまま行えます。
2. バッテリーを充電器[17]に接続します。



3. チャージャーをコンセントに接続します。
4. 充電インジケータ [18] がオレンジ色で点灯していることを確認し、充電中であることを確認します。
5. 充電が完了すると、充電インジケータ [18] が緑色に点灯します。

メモ：

バッテリーを深放電すると、本書の仕様に記載された時間よりも充電時間が長くなる場合があります。

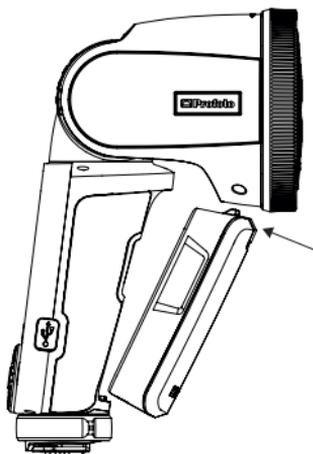
バッテリーがオレンジ色に点滅している場合は、バッテリーに異常があります。お近くのプロフォト販売店にお問い合わせください。

充電器の主要ケーブルとプラグは、主電源から接続を切る装置として機能します。充電が完了したら、必ずケーブルではなくプラグを引っ張り、主要電源から充電器を抜いてください。

本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにしてください。

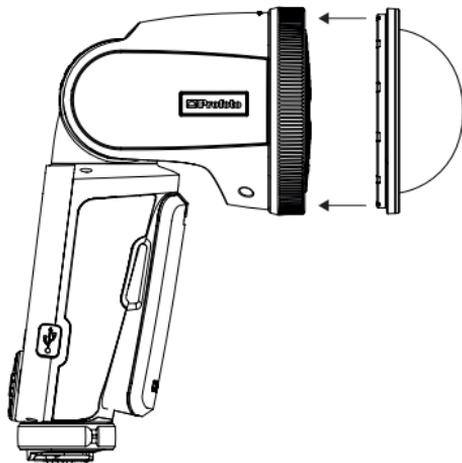
バッテリーの装着

バッテリーの底部をA1に装着し、カチッと音がするまで押してください。



ライトシェーピングツールの装着

専用のライトシェーピングツールは簡単に装着できます。フラッシュレンズの前面から取り付け、カチッと音がすると装着完了です。引っ張るだけで取り外すこともできます。



オンカメラをTTLモード(自動)で使用する

1. A10のホットシューコネクタ[7]をカメラのホットシューに差し込みます。ロックシステムを回して固定します。
2. A10の電源を入れます。
3. ダイヤル[13]を時計回りに回してロックを解除します。
4. モードスイッチ[10]をTTLモード(自動)に切り替えます。
5. 撮影時は、フラッシュが自動的に最適露出へ調光します。
6. ダイヤル[13]を回すと、光量補正を調整できます。光量補正の調整はカメラ側からできます。

ヒント:マニュアルモードに切り替えることで、最後に使用したTTL設定を保持できます。これは、フラッシュ出力を一定に保つ必要がある場合に特に便利です。

メモ:

TTLはA~Cグループでのみ使用できます。D~Fグループはマニュアルモードにのみ対応します。これはスイッチ[10]をTTLモード(自動)に切り替えた場合でも同じです。

Profoto A10 Air TTL-Sについては、カメラまたはスタジオライト用スタンド[19]にフラッシュが装着されていない場合、必ず保護用キャップ[25]を使用してください。ロックリング[16]を締めて固定します。

オンカメラ(マニュアルモード)で使用する

1. 上記の手順1~3に従ってください。
2. モードスイッチ[10]でMAN(マニュアル)モードを選択します。
3. 撮影して露出を確認するか、テストボタン[12]とフラッシュメーターを使って露出を測定します。
4. ダイヤル[13]を回して発光量を調整します。

ヒント:測光時間を節約する際は、最初にTTLで撮影してからマニュアルに切り替えることでフラッシュ出力を固定できます。これにより、適正露出まで素早く調整した後、フラッシュ出力をマニュアルで微調整できます。

オフカメラ使用

次に、オンカメラのA10をトランスミッターとして使用しながら、A10ユニットをオフカメラ（カメラからは分離させて）使用する方法を説明します。A10をオフカメラで使い、Air Remoteからコントロールする場合は、Air Remote用マニュアルで操作方法をご確認ください。

1. A10の電源を入れます。
2. ダイヤル[13]を時計回りに回してロックを解除します。
3. AIR機能を有効にし、カメラ側と、離して使う側（ワイヤレス側）のA10ユニットの無線チャンネルを合わせます。
4. A10フラッシュでグループを選択します。ユニットはオフカメラ用に設定されています。
5. 撮影して露出を確認するか、マニュアルモードでテストボタン[12]とフラッシュメーターを使って露出を測定します。
6. ダイヤル[13]またはカメラ側のメニューを使用して、光量補正します。
7. フラッシュを個別で調整するには、カメラ側でグループボタン[11]からグループを選択し、ダイヤル[13]を回してフラッシュ出力を調整します。調整はTTLモードとマニュアルモードのどちらでも可能です。
8. マニュアルモードでは、発光量をカメラ側とワイヤレス側で個別に調整できます。

メモ:

A10をオフカメラで使用した場合、TTL/MANスイッチ[10]が無効になります。スイッチは、カメラに装着されたA10を制御する場合にのみ有効です。

オフカメラモバイルモード

プロフォトアプリとA10は簡単に接続できます。接続後は、A10の使用がより簡単に、また楽しくなります。プロフォトアプリでは、次の機能にアクセスできます。

- プロフォトコントロールアプリを使用した簡単な更新とスマートリモートコントロール。常にA10を更新でき、スマートフォン画面からA10の全設定を確認でき、簡単にコントロールすることができます。
- プロフォトカメラアプリを使用したクリエイティブキャプチャ。ライトと影を駆使し、A10で照らし出しスマートフォンでの撮影が可能です。

プロフォトアプリをA10に接続するには、A10の設定メニューで「BLUETOOTH ON (Bluetoothオン)」を選択します。その後、プロフォトアプリをスタートして、アプリ内の指示に従います。

注意

プロフォトコントロールまたはプロフォトカメラアプリを使用する場合、モードスイッチ [10]が無効になり、A10がカメラのホットシューに取り付けられているかどうかに関係なく、TTL (AUTO) または手動モードが使用されるかどうかアプリによって決まります。

操作

A10をホットシューに取り付けると、単体でオンカメラフラッシュとして機能するだけでなく、カメラはプロフォト製オフカメラフラッシュヘワイヤレス拡張され、TTL (Through-The-Lens) 露出制御、そして手動でプロフォト製ライトの同期と調節ができる機能が備わります。

A10は、プロフォトカメラアプリを使用して、モバイルカメラのフラッシュとしても使用できます。「プロフォトカメラとコントロールアプリ」の章を参照してください。

電源のオン/オフ

- ON/OFFボタン[12]を押してA10の電源をオンにします。
- A10の電源をオフにするには、ON/OFFボタン[12]を長押しします。

A10のスイッチをオフにすると、現在の設定が保存され、ユニットのスイッチが再度オンになったときに適用されます。

節電機能により、A10が一定時間(スタンバイ設定から選択可能)放置されると自動的にスタンバイモードに入り、90分後に完全にオフになります。スタンバイ機能は、スタンバイ設定で無効にできます。

自動的にに入ったスタンバイモードでは、ディスプレイ[9]とテストボタン[12]がオフになります。スタンバイモードを解除するには、いずれかのA10ボタンを押すか、カメラから撮影します。

メモ:

スタンバイ機能とオートパワーオフ機能を無効にした場合、待機状態のバッテリー持続時間は約8時間です。

モード選択(TTLまたはMAN)

モードスイッチ[10]を使ってTTLまたはMANモードを選択します。モードスイッチはオンカメラで使用したときにのみ有効です。A10をオフカメラで使用した場合はモードスイッチの切り替え機能が無効になります。TTLモードまたはマニュアルモードを使用している場合は、カメラ側が全機の発光量を制御します。プロフォトコントロールまたはプロフォトカメラアプリを使用する場合、モードスイッチも無効になります。

- TTLモード(自動):カメラが発光量を制御します。A～Dグループの発光量と光量補正をオンカメラのA10側から自動調節します。
- MANモード:A、B、CおよびDグループの発光量をオンカメラのA10側から手動で調節できます。

メモ:

グループボタンを2回押すと、全グループ(A～F)が選択され強調表示され、すべての設定が全グループ(A～F)に適用されます。

フラッシュ出力スケール

A10ユニットのフラッシュ出力は絞り値換算で表示されます。フルフラッシュ出力の100%は常に10と表示されます。絞り値を1段減らすとフラッシュ出力が半減します。つまり9.0のフラッシュ出力はフルフラッシュの50%です。

発光量は0.1段単位で調整できます。

TTL(自動モード)モードでの操作

フラッシュ出力関係の調整

TTLモードではカメラが発光量を制御します。複数のライトを使用する場合、A～Cグループ間のフラッシュ出力補正を相対的に調節できます。これにより各方向からの発光量を調節できます。

1. A～Cのグループボタン[11]から、対応するグループを選択します。
2. グループを選択したら、次のうち1つ以上の操作を実行します:
 - 選択したグループの(他グループに対する)相対的な光量補正を、ダイヤル[13]を回して調整します。相対的な光量補正は、A、BまたはCグループごとに±2段まで調節できます。
 - ボタン[15]を押して、選択したグループの定常光のオン/オフを切り替えます。

- グループボタン [11] を押し続けて、選択したグループのフラッシュヘッドのオン/オフを切り替えます
- ディスプレイの表示は、数秒経つと自動的にメインメニューに戻ります。

メモ:

TTLモードでは、各グループに表示される数値は、グループ間の関係のみを示します。絶対的なフラッシュ露出は、常にライト側またはカメラ側の光量補正から制御します。

メモ:

Profoto AirTTL非対応のライトをTTLモードのProfoto AirTTL対応ライトと組み合わせると、Profoto AirTTL非対応ライトの発光は全体の発光量に加算されません。Profoto AirTTL非対応ライトは、例えば背景の露出を手動設定する場合などに使用できます。

Profoto AirTTL対応ライトがD、EまたはFグループに含まれる場合、シンクロはされませんが、TTL調光の対象とはなりません。これらのライトの発光は全体の発光量に加算され、例えば背景の露出を手動設定する場合などに使用できます。

フラッシュの光量補正

カメラの光量補正機能の代わりに、A10側からTTLモードの全フラッシュ露出を補正できます。

光量補正を調整するために、A10 をカメラのホットシューに接続しなければなりません。グループが選択されていないことを確認し、ダイヤル [13] を使用して光量補正 +3.0 f ストップを調整します。選択した光量補正は、全TTLグループ (A、B、C) のライトに適用されます。

MANモード(マニュアルモード)での操作

MANモードでは、A、B、C、Dグループの発光量を手動でA10から調節できます。

- 次のいずれかの操作により、グループを選択します：
 - A～Dのグループボタン[11]からグループを選択します。
 - 全グループを選択するには、グループボタン[11]のいずれかを2回押します。全グループを選択すると、グループEとFのライトもA10から制御されます。
- グループを選択したら、次のうち1つ以上の操作を実行します：
 - ダイヤル[13]を使用して、フラッシュ出力設定の光量補正を調整します。調整時は、常に現在の光量補正(グループインジケータの上に「0.0」と表示)から開始されます。補正值(+1.2など)はグループインジケータの上に短く表示されます。
 - ボタン[15]を押して、選択したグループの定常光のオン/オフを切り替えます。
 - 特定グループの発光のオン/オフを切り替えるには、グループボタン[11]を長押しします。
 - ディスプレイの表示は、数秒経つと自動的にメインメニューに戻ります。

メモ:

上限フラッシュ出力量を超えているため設定できない場合は、A10が警告音を発してコマンドが実行されなかったことを通知します。この場合、特定グループ内のライトのフラッシュ出力はいずれも変更されません。

定常光

A10の定常光をオンにするには、ボタン[15]を押します。

特定グループの定常光を有効にするには、まずグループを選択し、次にボタン[15]を押します。

A10定常光が有効になると、丸い点がディスプレイの右側やグループ上に表示されます。

フラッシュヘッドのオン/オフ

フラッシュヘッドは、A10の電源を切ることなくオフにできます。この機能は、A10をワイヤレスコントローラとしてのみ使用し、フラッシュさせない場合に使用します。

定常光ボタン[15]を長押しし、A10ランプヘッドのオフ/オフを切り替えます。

メモ:

A10フラッシュヘッドのオン/オフは、設定メニューからも変更できます。

ユーザーインターフェースのロック

設定ボタン[14]を長押しすると、ユーザーインターフェイスがロックされます。そして、ロック記号が表示されます。フラッシュは正常に動作しますが、ユーザーインターフェイスは設定ボタンをもう一度長押ししてユーザーによってロックが解除されるまでボタンプッシュに応答できません。

マニュアルズーム

ズーム(照射角度)はいつでも調整できます。たとえば、一部を強調するために光を絞り込むことができます。

照射角度を変更するには、フラッシュヘッドのズームリング [2] を時計回りまたは反時計回りに回します。



テスト同期

A10をテストフラッシュする場合や、フラッシュメーターを使って露出を測定するには、テストボタンを押してフラッシュさせます。Air機能が有効になっている場合は、選択したチャンネルのライトもすべてフラッシュします。

テストボタン[12]を押して手動で同期信号を送信し、ライトをフラッシュさせます。

フラッシュオフカメラで使用する

A10は無線トランシーバ (AirTTL) を内蔵しているため、オフカメラでも簡単に使用できます。ホットシューに装着する送信側 (カメラ側) には、A10 またはAir Remoteのどちらも使用できます。

1. カメラのホットシューのトランスミッターで、Airを有効にし、チャンネルを設定します。
2. オフカメラで使用するライト (ワイヤレス側) でもAirを有効にし、オンカメラの送信機と同じチャンネルに設定します。

設定の変更

すべての設定項目は、設定メニューから簡単にアクセスできます。

各種設定に関する詳細は、後続のセクションを参照してください。

1. 設定ボタン [14] を押すと、設定メニューが表示されます。
2. ダイヤル [13] を回して、変更する設定を選択します。
3. 設定ボタン [14] を押すと、選択した設定のオプションメニューが表示されます。
4. ダイヤル [13] を回して設定オプションを変更します。
5. 設定オプションを確定して設定メニューに戻るには、設定ボタン [14] を押します。
6. 設定メニューの一番上にある左向き矢印を選択してメインメニューに戻るか、他のいずれかのボタンを押します。

Airグループ

グループ (A~F) の設定がA10に適用されます。

選択中のグループは、ディスプレイ [9] 上部に表示されます。

Airチャンネル

Airチャンネル設定はオンカメラでコントローラーとして使うA10と、オフカメラで使うA10の両方に適用されます。

選択中のチャンネルは、ディスプレイ [9] 上部に表示されます。

Air

Air設定では、内蔵Profoto Airトランシーバのオン/オフを切り替えられます。

- ON (オン): オンカメラのA10から、Profoto Airシリーズのフラッシュ (A10フラッシュを含む) とジェネレータのフラッシュや調光を制御できます。この設定では、ユニットは別のAIRトランスミッターからもコントロールできます。
- OFF (オフ): A10はA10フラッシュを制御するためのみに使用でき、他のリモコンやフラッシュから制御することはできません。
- オン (送信のみ): レシーバ機能を無効にするために使用します。A10は、A10フラッシュを含むProfoto Airフラッシュユニットおよびジェネレータのトリガーおよび/またはコントロールに使用できますが、他のリモコンやフラッシュからコントロールすることはできません。カメラでは、同じ無線チャンネルを使用する別のカメラのAIRトランスミッターがフラッシュするのを防ぎます。

Bluetooth

A10のBluetooth低エネルギー技術をオンまたはオフにすることで、A10はプロフォトアプリで動作できるようになります。

切断ボタンを押すと、A10との接続を切断するために、接続したスマートフォンにリクエストを送信します。

Head (ヘッド)

フラッシュヘッド設定では、A10フラッシュヘッドのオン/オフを切り替えられます。オフにすると、同期信号を受信してもフラッシュしません。オンカメラまたはオフカメラで使用する場合のどちらでも機能します。

Sync (同期)

カメラに応じて、[同期]メニューには異なったオプションが表示されます: Canon (キヤノン)

- 1ST (ファースト)
- 2nd (セカンド)
- X-SYNC

Nikon (ニコン)

- 1ST (ファースト)
- 2nd (セカンド)
- X-SYNC

X-syncがフラッシュユニットで選択されていない限り、カメラ設定のメニューは現在の状態を表示します。

富士フィルム

- 1ST(ファースト)
- 2nd(セカンド)
- HSS(オートFP)

オートFP(HSS)はカメラのシャッタースピードに応じて自動Hi-Sを有効にします。

ソニー

[同期]メニューが表示されないと、すべての同期設定がカメラから制御されます。

キャノンとニコンのX-syncオプションは、連続撮影で毎秒の露出を最大化するために使用することができます。同期信号を除き、フラッシュとカメラ間の通信はすべて無効になります。このオプションは、TTLやHi-Sを含むA10の制御可能なカメラ設定をすべて無効にします。

キャノンとニコンのバージョンでX-syncを有効にすると、標準のホットシューを持つ任意のカメラで手動モードでA10を使用することができます。富士フィルムのA10でも、特別な設定を行わない場合も同様です。

Zoom(ズーム)

ズーム(照射角度)の設定はA10フラッシュに適用されます。

次のズームモードから選択できます：

- MANUAL(手動)：ズームリング[2]を回して手動で調整します。
- AUTO(自動)：A10閃光の照射角度は、カメラのズーム(画角)レベルに自動で追従します。
- A10の照射角度は広角から望遠まで段階別に設定できます。

メモ：

ライトシェーピングツールをA10に装着している場合、照射角度は異なります。

定常光

定常光は、フラッシュヘッドに内蔵された定常光源です。照射角はA1のズーム設定と同じです。影を確認したり、ライトの配置位置を調節したりする場合に定常光は便利です。

設定では、閃光の出力に対応するようにA10の定常光を選択できます。

設定オプションには次の4つがあります。

- MIN (最小) : 選択した発光量 (光の出力) に関係なく、ランプの発光量は 50% になります。
- MAX (最大) : 選択した発光量 (光の出力) に関係なく、ランプは最大の出力になります。
- PROP (比例) : 選択した発光量 (エネルギーレベル) に応じて、発光量が自動調整されます。
- フリッカーフリー : ランプはズーム設定に関係なく最大の出力になります。

充電完了信号

充電完了信号は、A10のフラッシュの充電が完了したことを示します。

充電完了シグナルには4つのオプションがあります：

- BEEP (ビーブ音) : 充電完了をビーブ音で通知します。ビーブ音を選ぶと操作音も有効になります。
- DIM (画面点灯) : 定常光は発光後に消灯し、再度フラッシュの準備が完了すると点灯します。
- BEEP DIM (ビーブ音・画面点灯) : 定常光は、フラッシュの後、オフになります。ライトは、再度フラッシュの準備ができると、オンになり、ビーブ音が鳴ります。
- OFF (オフ) : 充電完了音や通知を発生しません。

上記のどの設定を選んだ場合でも、テストボタンライト[12]がフラッシュ後に消灯し、A10の充電が完了すると再度点灯します。

サウンドのコントロール

設定を「ON (オン)」または「OFF (オフ)」にすることで、ダイヤルやボタンのサウンドを有効または無効にできます。

警告音

「WARNING SOUNDS (警告音)」を「ON (オン)」または「OFF (オフ)」に設定すると、A10 AirTTLのリサイクル前にフラッシュをたいた場合、露出が誤っていると発せられる警告音を有効または無効にできます。警告は、TTLの使用時に要請された発光量が範囲外になった場合も発せられます。工場出荷時の設定は「OFF (オフ)」です。

ディスプレイの明るさ

ディスプレイ[9]のバックライトの明るさはバッテリーの持ち時間に影響します。

バックライトオプションは、次の3つから選べます：

- MIN (最低)
- MEDIUM (中)
- MAX (最大)

スタンバイ

スタンバイモードまでの待機時間は、次の3つから選べます：

- 2 MIN (2分)：電源 (ON) 状態で2分放置するとスタンバイモードに入ります。
- 30 MIN (30分)：電源 (ON) 状態で30分放置するとスタンバイモードに入ります。
- OFF (オフ)：スタンバイモードが無効です。スタンバイモードを無効にすると、電源オートオフ機能も無効になります。

スタンバイタイマーが有効な場合は、対応する自動電源オフタイマーが90分に設定されています。

規制情報

様々な市場に関する重要な規制情報を表示します。A10ユニットのマーケティングおよび規制情報の章を参照してください。

概要

A10に使用されているハードウェアの種類と現在のファームウェアを表示します。リセットボタンを押すと、A10を工場出荷時の設定にします。

AF assist (オートフォーカス補助光)

AF補助光設定では、オートフォーカス補助光のオン/オフを切り替えられます。AF補助光は一般的に目には無害である構造化されたレーザー光ですが、拡大鏡、双眼鏡、望遠鏡などの光学補助具で見ると危険です。

- OFF (オフ)：AF補助光をオフにします。
- AUTO (自動)：A10が互換性のあるカメラに接続されている場合、必要な場面で自動的にAF補助光が照射されます。
- ON (オン)：AF補助光が常に照射されます。

Profoto Airの操作に関する一般的な注意事項

Profoto Airのチャンネルは2.4 GHz帯で特定の周波数を使用します。到達距離は300メートルです。周波数は周波数帯の全域で均等に配分されています。各チャンネルは周波数帯が異なるため、他のカメラマンが使用するProfoto Airや、2.4 GHz周波数帯で動作する他の無線機器 (WLAN/Bluetoothデバイスなど) からの干渉がないチャンネルを選択できます。

- 可能な場合は、Profoto Airユニット間の見通し線を維持してください。
- 見通し線を確保できない場合は、到達距離が減少するため、金属製の物体や水が満たされた容器を間に挟まないように注意してください。

ライトシェーピング

A10は、全ズームポジションで丸くて均等な光を形成します。A10用に設計されたライトシェーピングツールを使用することで、光質を変化させることができます。

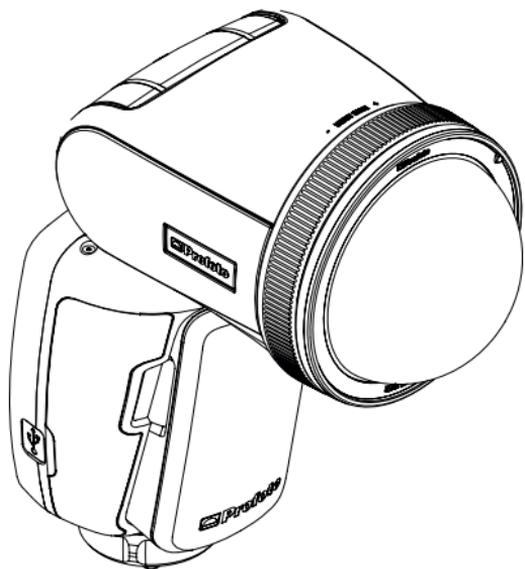
オンカメラでA10を使用する場合、照射角度をレンズのズーム設定に自動追従させることができます。照射角度をメニューから設定するか、またはズームリング[2]を回して手動で設定することもできます。ズームリング[2]を使用すると、照射角度の設定はマニュアルモードに切り替わりません。現在の照射角度の設定は、ディスプレイ[9]の上部に表示されます。

ズーム設定は、35mmカメラ換算で次の焦点距離にほぼ相当します。

照射角の設定	焦点距離
	アクセサリ未装着のA10
	105 mm
	80 mm
	60 mm
	45 mm
	32 mm

クリックドーム

クリックドームは、マグネット式マウントによりA10に装着できます。装着すると、指向性の弱い光が得られます。



メモ:

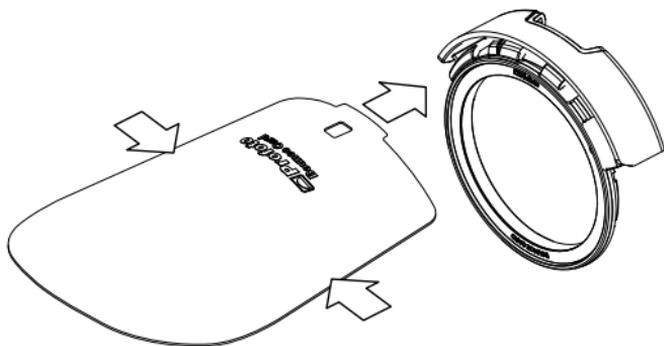
クリックドームは、他のライトシェーピングツールとも併用できます。例えばオプションのジェルをクリックドームと組み合わせて使用できます。

バウンスカード

バウンスカードは、クリックドームと同様に、マグネット式マウントにより装着できます。用途はクリックドームに似ていますが、より指向性の強い光を得られます。

バウンスカードをホルダーに取り付けるには、バウンスカードを横から少し押し込んだ状態でホルダーにしっかりと(所定位置にはまるまで)差し込みます。

一般的にはフラッシュヘッドを反射面に向けた状態で、バウンスカードを被写体に向けます。



メモ:

バウンスカードは、他のライトシェーピングツールとも併用できます。例えばオプションのフィルターをバウンスカードと組み合わせて使用できます。

その他の機能

ファームウェアのアップグレード

A10を使い始める前に、最新版のファームウェアをご確認ください。

最新版のファームウェアを入手するには、profoto.com/myprofotoで個人アカウントを作成してください。アカウントを作成して製品登録を行うと、新しいファームウェアが公開されたときに通知を受け取れます。

ファームウェアのアップグレードは、A10またはプロフォトアプリのUSBポート[8]を使用して行います。専用サイト (profoto.com/myprofoto) からファームウェア更新ソフトウェアをダウンロードし、指示に従ってください。専門サービスを受けるには、お近くのディーラーや代理店にいつでもお問い合わせください。

現在のファームウェアバージョンの確認：

1. A10の電源を入れます。
2. 設定ボタン[14]を押して下にスクロールします。
3. ABOUT[14]を選択します。

プロフォトアプリでA10のファームウェアを更新する場合は、更新が完了する前にデバイスの電源を切る、またはバッテリーを引っ張り出さないでください。ファームウェアの更新が不完全の場合、A10は起動しません。起動しない場合は、プロフォトウェブサイトのUSBファームウェアアップローダーを使用してファームウェアを再び更新してください。

ファクトリーリセット

[About (設定)]メニューで[RESET (リセット)]を選択し、すべての設定を工場出荷時のデフォルトオプションに戻します。

Profoto Airとの互換性

- Profoto A10 AirTTL-CIは、E-TTL II測光システムを搭載したキャノン製カメラ用です。
- Profoto A10 AirTTL-Nは、i-TTL測光システムを搭載したニコン製カメラ用です。
- Profoto A10 AirTTL-Sは、i-TTL測光システムを搭載したソニー製カメラ用です。
- Profoto A10 AirTTL-Fは、i-TTL測光システムを搭載した富士フィルム製カメラ用です。
- ただし一部の機種は対応していないか、機能が制限されています。最新の対応情報は、弊社ウェブサイト (Profoto.com) をご確認ください。
- Profoto A10 AirTTLは、Profoto Air機能を内蔵したプロフォト製フラッシュおよびジェネレーターと併用できます。対応状況については、次の表をご覧ください。
- Profoto A10 AirTTLから、Air RemoteやAir Sync Profoto Airトランシーバーに接続したフラッシュを発光させることもできます。
- Profoto A10 AirTTLフラッシュを他のProfoto Airトランシーバーから同調・制御することもできます。
- Profoto A10 AirTTL-CIは、キャノン製スピードライトを含む他社製フラッシュと互換性はありません。
- Profoto A10 AirTTL-Nは、ニコン製スピードライトを含む他社製フラッシュと互換性はありません。
- Profoto A10 AirTTL-Sは、ソニー製フラッシュを含む他社製フラッシュと互換性はありません。
- Profoto A10 AirTTL-Fは、富士フィルム製フラッシュを含む他社製外部フラッシュと互換性はありません。
- Profoto A10 AirTTLは他社製のワイヤレストリガーシステムと互換性はありません。

プロフォト製フラッシュ上のAirラベル	Profoto A10 AirTTLの対応機能			
	手動同期	リモートコントロール	TTL	HSS
AirTTL	X	X	X	X
Air	X	X		
AirS	X			

技術仕様

仕様

Profoto Air

周波数帯 2.4 GHz (2404 ~ 2479.3 MHz)

周波数チャンネル数 20 (1-20)

無線電力出力 最大 19.9 dBm

チャンネルごとのグループ数 TTL調光: 3 (A ~ C)

マニュアル操作: 6 (A ~ F)

Bluetooth 低エネルギー技術

周波数帯域 2.4 GHz (2404 ~ 2479.3)

周波数チャンネル数 40

無線出力電力 最大 8 dBm

操作モード TTL、マニュアル

カメラ側TTL機能との互換性 A10 AirTTL-C - Canon E-TTL II
A10 AirTTL-N - Nikon i-TTL
A10 AirTTL-S - Sony TTL
A10 AirTTL-F - Fujifilm TTL

シンクロモード 先幕、後幕、ハイスピードシンクロ
(HSS/オートFP発光)、Xシンクロ
モード

カメラマウント/コネクタ キヤノン/ニコン/ソニー/富士フィルム製カメラのホットシューマウント
ファームウェア更新用USBマイクロ-Bコネクタ

仕様	
範囲	通常発光時最大 300 m (オープンスペースで遮るものが無い場合) ¹ ワイヤレス調光・TTL使用時最大 100 m
発光量	76ワット/秒
フラッシュ出力範囲	絞り9段(2~10)
充電時間	0.05 ~ 1.0 秒
閃光時間	1/20,000 ~ 1/800 秒
フラッシュ出力	絞り0.2段
色温度安定性	±150°K
定常ランプ	LED
バッテリーの種類	リチウムイオン
バッテリー充電時間	115 分
バッテリー容量:	フル発光最大 450 回
LCDディスプレイ	搭載
スタンバイ	電源 (ON) 状態で一定時間 (2分または30分) 経過すると、節電モードに入ります。
自動電源オフ	電源 (ON) 状態で一定時間 (90分) 放置後、オフ設定可。

1. 実際の範囲は、サイトのレイアウト、周辺の素材およびその他の無線通信によって異なります。

仕様

Profoto Airの対応機能

シンクロ・フラッシュ	対応:A10はAir Remote/Air Syncトランシーバー、プロフォトブランドのAirTTL、Air、およびAirSをトリガーします。
リモートコントロール	対応:A10はプロフォトブランドのAirTTL/Air搭載ライト全機種で、マニュアルリモートコントローラとして機能します。
TTLコントロール	ProfotoブランドのAirTTL搭載ライト全機種で、TTLグループ調光に対応

大きさ・重さ

寸法	(厚) 108 X (幅) 75 X (高) 165 mm
重量 (バッテリー含む)	560g

すべてのデータは公称値であり、予告なしに変更される場合があります。

保証

保証書は、www.profoto.comの製品ページからダウンロードすることができます。

規制情報

準拠規格マーク

Profoto A10 AirTTLに関する規制情報、認証、コンプライアンスマークは、A10 AirTTLでご確認ください。A10 AirTTLユニットラベルに記載、および設定メニューからご確認いただけます。[Settings (設定)] > [Regulatory information (規制情報)] を選びます。

各国における無線周帯の使用

Profoto Air システムは、ライセンスフリーの SRD (ショートレンジデバイス) 用 2.4 GHz ISM 帯で作動します。この帯は、世界のほとんどの場所で使用できます。ただし、地域的な制約が適用される場合があります。

メモ:

A10 AirTTL を使用する地域の国別規制を参照し、準拠していることを確認してください。

EU適合宣言

Profoto AB は、Profoto A10 AirTTL の無線機器が 2014/53/EU 指令に準拠していることを宣言します。

EU 適合宣言の全文は、以下のウェブサイトから入手できます:

<https://profoto.com/int/support/declaration-of-conformity>

米国およびカナダ

FCCサプライヤー適合宣言 (SDoC)

Profoto AB

トランスミッター / レシーバー

モデル: Profoto A10 AirTTL

製品番号: PCA1534-0020、PCA1534-0010、PCA1534-0030、PCA1534-0050

FCC IDを含む: W4G-RMIX、QOQ13

および IC: 8167A-RMIX、5123A-13

スウェーデンにて設計、タイにて製造

責任当事者

米国お問い合わせ先

Profoto US

Profoto US

220 Park Ave

Suite 120

Florham Park NJ 07932

+1 973-822-1300

us-info@profoto.com

FCCおよびカナダ産業省

コンプライアンス声明 (パート 15.19) 本装置は、FCC 規則のパート 15 およびカナダ産業省の RSS-210 に準拠しています。

操作は次の2つの条件に従います:

1. 本装置は有害な干渉を起こすことはありません、
2. 本装置は、予期せぬ動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した任意の干渉を受け入れることがあります。

認証/登録番号の前にある用語「IC」は、カナダ産業省の技術仕様が満たされていることを示します。

Ce dispositif est conforme aux normes RSS-210 d'Industrie Canada. L'utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes :

1. il ne doit pas produire de brouillage et
2. l'utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

Les lettres 'IC' n'ont aucune autre signification ni aucun autre but que d'identifier ce qui suit comme le numéro de certification/ d'enregistrement d'Industrie Canada.

警告 (パート 15.21)

コンプライアンスに責任を負う当事者が明らかに承認されていない変更や修正を行った場合は、装置を操作するユーザーの権限が無効になることがあります。

FCC無線周波数被爆

警告: Profoto A10装置は、米国FCC無線周波数暴露限度以下のレベルで無線周波数エネルギーを放射します。しかしながら、本製品は通常の操作中、人と接触する可能性が最小限になるように使用する必要があります。携帯での操作については、本装置は試験済で、装置が身体から最低1.0cmの位置にあるときFCC RF暴露ガイドラインを満たします。

IC RF 暴露限界

Profoto A10装置は、制御されていない環境に対して定められたICRSS-102放射線暴露限度に準拠しています。手に持った状態での使用に関して本製品に検査が実施され、体から1.0cm未満で本製品を使用した際、IC RF被爆ガイドラインを満たすことが証明されています。

Limites d'exposition RF IC

Le dispositif Profoto A10 est conforme aux limites sur l'exposition aux rayonnements IC RSS-102 définies pour un environnement non contrôlé. En mode manuel, ce dispositif a été testé et respecte les limites d'exposition IC RF lorsque ce dernier est placé à au moins 1 cm du corps.

日本

このモジュールは、日本での販売および使用許可を得ています。

特定無線設備の種類

指定無線装置の分類：

第2条、第1節、19項

2.4GHz広帯域低電力データ通信

上記のとおり、電波法第38条の24第1項の規定に基づく認証を行ったものであることを証する。

これは、電波法第38条の24第1項の規定に基づいて、上述の認証がタイプごとに付与されていることを証明するものです。



202-SMH030

209-J00306

韓国

해당 무선설비는 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없음.

台湾

經型式認證合格之低功率射頻電機，非經許可，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。

低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。

前項合法通信，指依電信法規定作業之無線電通信。低功率射頻電機須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

クレジット

Apple iPhoneは、米国および他の国で登録されているApple Inc.の商標です。

Bluetoothワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標です。プロフォトによる当該マークの使用はすべて、ライセンスに基づいて行われています。

その他の商標と商品名は各所有者の所有物です。

第三者の著作権および使用条件

LibOpenCM3は、フリーソフトウェア財団が発行したGNU Lesser General Public Licenseバージョン3以降のライセンス条件の下でライセンスされたフリーソフトウェアです。LibOpenCM3は有用性を見込んで配布されていますが、いかなる保証もありません。商品性または特定目的への適合性に関して暗示的に保証されることもありません。詳細については、GNU一般公的使用許諾書とGNU劣等一般公衆利用許諾書<<http://www.gnu.org/licenses/>>を参照してください。プロフォトへ書面で申請した場合、LibOpenCM3のソースコードをGPL条件に基づいて入手できます。

Profoto AB
Box 1264,
17225 Sundbyberg
Sweden

+46 (0) 8447 53 00
info@profoto.com
www.profoto.com

 **Profoto**

技術データと製品情報は予告なく変更される場合があります。

PGM0034-0000 2023年3月